

## 教師力向上支援事業派遣研修報告書

- 1 所属・職・氏名 高岡市立国吉義務教育学校・教諭・高辻 竜成
- 2 研修期間 令和6年7月25日(木)～令和6年7月26日(金) 2日間
- 3 調査研究課題 相手意識や目的意識を大切にした表現力の育成
- 4 研修機関等 富山経済同友会 (株)MGG 代表取締役社長 牧田 和樹  
YKK(株) 副社長 黒部事業所長 小林 聖子  
(株)ユーグレナ 代表取締役社長 出雲 充

### 5 研修の概要

#### (1) 講演会

##### ① (株)MGG 代表取締役社長 牧田 和樹 様の講演

「人間力について考えよう!」と題して、ご講話いただいた。リーダーとして組織を動かしていく際に、経営理念やビジョン、方針を固めていたとしても、PDCAの部分が疎かであったら組織は成り立たないということ、人に動いてもらいたいときは、説得をするより納得をさせることが大切だということ、仕組みづくりをしっかりと行えば勝手に組織は動いていくということを教えていただいた。特に、人を納得させるメカニズムについてのお話が心に残っている。人を納得させるためには、人間的・能力的に魅力のある人が、情緒的・論理的に対応することが大切であり、人間性・知性・意欲をしっかりとって人間力を身に付けていくことが重要であった。人間力を身に付けていくために、これからはさらに広い人間関係を構築できるようにしたり、自己の存在意義を確立させたりしていきたい。また、人間力は伝播するともお聞きしたので、まずは自分が人間力のある教師になる努力をし、子供の人間力を育てられるようにしたい。

##### ② YKK(株) 副社長 黒部事業所長 小林 聖子 様の講演

「自分らしく働く」と題して、ご講話いただいた。「キャリア」とは、仕事や職業だけでなく、人の働き方の過去から将来のプロセスであり、人の人生そのものだということ、大きな意味で言えば、どのような人生を送りたいかということだと教えていただいた。またその中で、8割は偶然の出来事が多いということをご自身の経歴を踏まえて教えていただいた。偶然の出来事の中には、「誤算」も生じることが多く、その「誤算」をどう乗り越えるのか考えておく必要がある。小林副社長は、自分のやりたいことに素直であるということを常に意識されており、思ったことは付度せずに発言することを大切にしておられた。「誤算」を乗り越えるためには、自分の意思に忠実であり、これまでの経験が無駄にせずに運を活かす備えをしておき、順応性を高めておくことが大切だと感じた。また、自分らしくあるためにも、しっかりと判断基準をもって思ったことは言い、常になりたい自分を思い描き、自分を知る努力をしていきたい。

##### ③ (株)ユーグレナ 代表取締役社長 出雲 充 様の講演

「僕はミドリムシで世界を救うことに決めました。」と題して、ご講話いただいた。幼少期の出雲氏の夢は、海外に一度行くことであり、大学時代に人口大国で最貧国であったバングラデシュを訪れた。米の自給率は100%で大盛りのカレーを食べているのに、栄養失調が原因で、子供の致死率が高い現状があった。そこで、栄養素が多く含まれる「ミドリムシ」に可能性を感じ、起業をされた。しかし、「実績がないから」「他社が採用したらする」等の理由で採用を断られ続けた。しかし、ある企業が、「聞いたことがない、チャンスだ」と耳を傾けたことで採用され、ミドリムシを利用したクッキーを開発し、現在バングラデシュに届けられ、問題解決に向かっている。

日本は、失敗に対する危惧、身近に起業家が少ないなどの理由から、起業率が低い。若者のチャレンジを応援する社会となるように、現在、出雲氏は、スタートアップを支援している。起業して、成功していくためには変化に対応できる組織でなくてはならない。変化に対応できる組織とは、たくさんコミュニケーションをとっており、皆が平等に話す機会を設けられており、外部の意見をしっかりと取り入れている組織である。特に外部の意見、アウトサイ

ダーの視点がとても大切だということであった。また、ナンバーワンにこだわることも大切で、ナンバーワンを目指すための、諦めずに繰り返し努力できる土台が必要だと教えていただいた。土台としては、メンター（自分の人生に指針を与えてくれる人、困難な状況の時に精神的な支えとなる人）とアンカー（メンターの思いや理念を思い出させてくれるもの、認めてもらえるもの、もう一度頑張りたいと思えるもの）が必要で、メンターとアンカーはセットでないと機能しないと考えておられ、教師としては、子供たちのメンターになれるように努力していかなければならないなど、身が引き締まる思いになった。

## （２）アクティビティ研修

株式会社フクールで行っておられるアクティビティ研修を体験させていただいた。はじめにグループ分けをし、自己紹介をしたり、ニックネームを考えたり、チーム内での決め事を話し合ったりした。その後、ヘリウムリング・フラフープくぐり等をチームで協力して行った。フラフープくぐりでは、時間を定められ、いかに速く一周できるか話し合ったり、作戦を立てたりしていたが、それよりも試行回数が多いチームがよいタイムを出していることに気付かされた。時間を意識して、できることを精一杯行うことの大切さを改めて学ぶことができた。次にラインナップゲームを行った。次々に条件が追加されていく中で、メンバーが今どのようなことを考えているか、求められていることは何かと思考しながら活動した。相手の気持ちを思いやる、他者を意識した行動の重要性を、体験を通して感じる事ができた。また、グループで何人かが目隠しをして、周りからのアドバイスを頼りにテントを組み立てるというアクティビティも行った。その際には、自分たちのグループだけでは解決できないようなこともあり、他のグループと協力することで時間内に解決に向かうというねらいがあった。視野を広くもち、前提を疑いながら行動することをこれからは意識していきたい。

体を使って研修した後は、「人が育まれるために必要な要素は何か」という問いに対して、グループで意見を出し合った。生物学的に必要なこと（食事や睡眠等）はもちろんのこと、挑戦し続けていくことや家族、愛情等、様々な意見があった。同じ職種でも多様な価値観や考え方がありと研修を通して感じた。その後、その多くの意見の中からグルーピングし、人が育まれるために最も重要だと思うものを3つに絞って考えた。各グループでの発表では、「いろんな方向への愛情が不可欠」「外的な刺激と内発的な意欲が大切」等とグループごとの考えを共有することができた。

アクティビティを通して考え、また他者と対話することで、頭と身体を使って学習をすることができた。何気なく頭では分かっているつもりのことを実際に体験することで、再認識できたり、その難しさを知ったりすることができる貴重な機会となった。

## （３）研修を終えて

新たな視点を与えていただいたり、ディスカッションや体験を通して、分かっていたつもりのことを再認識したりできた貴重な研修となった。子供たちと日々活動する中で、子供たちが、自分の考えていることを表現する力の育成に力を入れたいと、この研修に参加したが、指導方法よりもまず、教師として、自分の人間力を磨いたり、確固とした判断基準をもって自分の意見を発言したりし、子供たちの「メンター」となれるように、自分自身が日々学び直しをし、成長していかなければならないと考えさせられた。

これからも、広い人間関係を構築させていくために、自分から外部と関わる機会を多くもつことで、視野を広め、学校という組織を「変化に対応できる組織」にしていきたい。また、教師自身が、人間力を高めるための行動をすることで、きっと子供たちにも伝播すると考えられるので、教師自身が自分から行動することが、子供たちの人間力を高め、他者と積極的に関わろうとする相手意識や自分を成長させたいと諦めずに努力したりする目的意識を忘れない子供の育成につながると考える。

最後に、このような大変貴重な機会を与えてくださった富山経済同友会の皆様、富山県教育委員会をはじめとするすべての皆様に心より感謝申し上げます。